

希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 27 年 5 月 19 日発行
第 8 号
発行人 校長 鈴木史良

いのちを守る危機管理とは

—— 日頃の生活から身につけたい危機管理の習慣 ——

学校便り第7号で、地震及び火災避難訓練の様子をお伝えしましたが、今回はもう少し大きな「危機管理」という視点で、児童生徒の安全について考えたいと思います。

5月の避難訓練は児童生徒への予告なしに、2校時の授業が始まって間もなく、突然、校内緊急放送が入ってスタートしました。

緊急放送によって、情報を瞬時にキャッチした児童生徒は、機敏な動きで机の下に身をひそめ、教師の指示に従ってスムーズな避難ができたことは前回お知らせしたとおりです。

校舎内で火が出た時、いちばん恐ろしいのは火炎で火傷を負うことではなく、煙を吸い込むことです。まだ火が出ていないから、あるいは煙だけだからといって絶対に油断してはいけません。恐

ろしいのは煙の中に含まれている一酸化炭素という物質です。透明で臭いもなく、人間が吸い込むと血液中のヘモグロビンと結びつき、めまいや頭痛、吐き気を誘発し、意識を失って最終的には死に至る危険な毒です。

では、避難時に一酸化炭素から身を守るにはどうしたらよいのでしょうか。それは日頃からもっているハンカチで口や鼻を覆いながら、できるだけ低い姿勢で避難することが大切です。日頃からハンカチをもつ習慣は、単にぬれた手をふくことだけではなく、万が一の火災発生場で、自分のいのちを守るのに役立ちます。ハンカチを常にもっていること、これだけでも大事な危機管理の一つになります。



危機管理その1: さあ逃げろ 火事だ煙だ ハンカチだ

「お・か・し・も」は集団で避難する時の大原則ですので、児童生徒の皆さんは必ず覚えておく必要があります。そのなかで、「お・か・し・も」の「も」、つまり「もどらない」ことの大切さに注目してみましょう。

被災現場からあわてて避難してきたため、何か大事なものを忘れたとか、学校だったらまだ友達の一人が、また自宅だったら家族の誰かが避難できていなかったという状況は可能性として必ず起こり得ます。そういう場合、人は自分が幸運にも助かったという状況をかえりみず、もう一度被災現場に戻ってしまうという傾向がみられ、実際多くの事例が報告されています。そうした場合の結果はどうだったのでしょうか。せっかく一度は助かったいのちだったのですが、被災現場に戻ったために失われてしまったのです。このことを私たちは、阪神淡路大震災や東日本大震災で、貴重な教訓として学びました。

いったん避難をはじめたら、たとえ途中で家族と離ればなれになって一人になった

としても、自分で安全な場所を判断し、最後まで逃げ切るという姿勢が大切です。日頃から学校でも家庭でも、「自分のいのちは自分で守る」という強い気持ちをもつこと、これが危機管理となります。

危機管理その2: 「もどらない」はいのちを守る 分かれ道

チューリッヒ日本人学校の校舎は借用している建物の二、三階（日本式）にあり、一階、四階、五階は現地の人々が利用しています。そのため、一階玄関からはいろいろな人々が入り出しているため、仮に悪意をもって近づいてくる人物がいたとすれば、そういう人物にとっては何の苦もなく侵入できる環境にある、ということの日頃から忘れてはならないでしょう。

そのため、学校の教職員がまずやるべきことは見知らぬ人物に対しての「声掛け」です。「声掛け」をして相手の様子を観察します。挙動がおかしい場合は要注意です。用事がない場合は丁寧に入校をお断りし、ありそうな場合は事務部に案内します。

万が一、児童生徒がグラウンド等で不審者に遭遇し、追いかけられたり手をつかまれたりした場合は、思い切り大きな声で叫ぶことが大切です。日本語で「誰か、助けてー！」と何度も大きな声で叫び続けるのです。単純なことのように見えますが、不審者はうろたえ、そのまま逃げていく場合があります。そしてすぐ近くの先生に連絡します。緊張のあまり「大声で叫ぶ」ことができなくなる子どももいるかもしれませんが、自分のいのちは自分で守ることを忘れず、日頃から「大声で叫ぶ」ことができるようにしておくこと、これも大切な危機管理です。（不審者訓練は2学期に実施予定です。）

危機管理その3: 助けてと 叫ぶ勇気が 身を守る

本校一日体験入学へようこそ！

5月15日（金）に体験入学生を迎えました。朝、8時30分から全校児童生徒が図書室の集まり、紹介式が行われました。今回体験入学したのは小学部2年生にAさん、Bさん、3年生にCさん、4年生にDさん、Eさんの5人で、自己紹介が立派にできました。好きな食べ物の紹介では、カレー、ラーメン、おにぎり、オムライス、寿司と、つぎつぎに日本食を代表する食べ物の名前が出てきたのが印象的でした。日本人学校の児童生徒たちと共に学び、遊び、弁当を食べ、充実した一日を過ごすことができたと思います。なお図書室前廊下の全校児童生徒の「くつならべ」は感動的な光景でした。

